

令和3年度 学力向上を図るための授業改善推進プラン

教科：数学

Research ⇒ 現状分析・課題把握

1年生・・【授業、単元テスト、小テスト、実技テスト、定期考査など】⇒期末考査の結果からは、50点と80点の2カ所にピークがあり、特に理解が不十分な生徒は注意深く見ていきたい。文字式に対する苦手意識をなくせるようにしていく。
区の学力調査では、全国平均と同じであった。活用に関する問題に対する正答率が高いので伸ばしていきたい。

2年生・・【授業、単元テスト、小テスト、実技テスト、定期考査など】⇒定期考査では、70点台の生徒が11人と最も多く、次に80点台、90点台の生徒がそれぞれ8人と続く。現状、基礎的な内容を理解出来ている生徒が多い。一方、30点に満たない生徒が5人いるなど、個別の支援が必要な生徒もいる。習熟度に大きな差があるので、より理解度を高めるには少人数授業を活かし個別の課題に取り組ませる等、指導の工夫が必要である。

3年生・・【授業、単元テスト、小テスト、実技テスト、定期考査など】⇒確認テスト、期末考査共によくできていた。授業態度も素晴らしい。7月の領域診断テストもよくできていたので受験も楽しみである。これを1年間続けられるようにしたい。

Plan ⇒ 課題解決のための主な取り組み(計画)

《Ⅰ 基礎的・基本的な知識・技能の『習得』》

1年生・・小テストで成果が出ているので続ける。標準コースでは、個人の差が激しいので個々のレベルに合わせてアドバイスしていく。

2年生・・小テストを実施している。習熟度クラス別の内容を行うこともあれば、一斉に確認テストを行うこともある。特に、基本的な計算に関しては、内容を細分化し、テストを行っている。また、定期テスト終了後はテスト直しを行い、知識・技能の定着を図る。学習習熟度の低い生徒には、基本的な内容の反復学習を授業内で行うとともに、学習指導支援員とも連携し個別指導を行う。

3年生・・プリントの量を多くして基礎・基本の徹底をしていく。特に発展では、小テストをすべて全員100点を目指させる。

《Ⅱ 思考力・判断力・表現力等の『活用』する力の育成》

1年生・・ワークや単元ごとの誤答分析をして応用問題のつまずきを探しアドバイスする。小テストをうまく活用しその生徒のつまずきに合ったアドバイスしていく。

2年生・・授業のまとめを行い、学習内容や考察を言語化させる。主体的・対話的で深い学びに繋がる題材を用意し、グループワークを行う。

3年生・・2学期からは、1・2年の復習プリント等もする。受験問題を絡めた問題に挑戦していく。
受験問題は、標準コースの生徒にも諦めさせないようにしていく。

《Ⅲ『学ぶ意欲や態度』の向上、学習習慣の定着》

1年生・・宿題提出も定期考査と同じ2局化しているため提出が良くない生徒に細かく声かけしていく。宿題提出回数も検討していく。

2年生・・問題集の定期的な回収を行い、未提出者のフォローをすることで、学習習慣を定着させる。
三中スタイルで、授業のねらい、流れを明確にする。毎時間の学習でどんな力がつくのかを明確にすることで、学ぶ意欲を向上させる。

3年生・・宿題提出立完成度が素晴らしい。テスト前の補習もよく出てやっけていて学力もどんどん上がっているためこのまま続けていく。